平成 23 年度第 2 回放送番組審議会

■平成 23 年度放送番組審議会委員

（敬称略）

会　長：金子　春生

副会長：　峯岸　忠雄

委　員：増田　福夫

委　員：吾孫子　輝一郎

委　員：米山　隆恭

委　員：城所　健司

委　員：　小島　大泰

委　員：源田　佐知子

委　員：齊藤　仁志

委　員：関戸　達哉

■審議会の開催状況

●平成 23 年度第 2 回放送番組審議会

日　　時：平成 24 年 3 月 7 日(水)　午後 2 時～4 時

会　　場：パルテノン多摩　第 2・第 3 会議室

出席委員

（敬称略 金子春生、増田福夫、吾孫子輝一郎、小島大泰、齊藤仁志、関戸達哉

（以上 6 名）

■議　　事

●説明事項

⑴平成 23 年度の主な活動実績について

⑵平成 24 年度の活動計画（案）について

⑶放送番組審議会での主な意見への対応について

⑷TTV-NOW 及びスクール通信の放送実績について

⑸テレビサービスの加入状況について

●審議事項

⑴　ダイジェスト版ビデオの視聴 TTV-NOW、スクール通信、TAMA の元気印、TAMA のまちネタドキュメンタリー番組「日本一ヘタな歌手」（ダイジェスト版）

●委員意見（視聴番組について）

・　かなり手の込んだ作りとなっており、見入ってしまった。大変素晴らしい番組だと思う。

・　ドキュメンタリー番組の全編視聴を楽しみにしている。

・　ドキュメンタリー番組の放送が４月を予定しているということなので、知り合いにも広めて視聴したいと思う。

・　ドキュメンタリーは素晴らしく、多摩テレビも捨てたものではないと感じた。友人にも紹介したい。放送が終了したらＤＶＤなどをいただけると、知人と話しができるので、そのあたりも宜しくお願いしたい。

・　この手の長時間番組を制作するには、かなりの努力がないと現実に作れないと思う。かつてこのような関係の仕事をした者からみると、つくづくそう思われる。単純な作りものではなしに、現実をピックアップした。それもかなり色々な視点で見た上で、整理し制作されたという点では、大変な努力があったのではないかと思うし、１人２人ではこういったものは出来ないので、表に現れない多数の協力があってできたのではないかという事を映像から感じた。

・　ＴＡＭＡのまちネタに出演していた女性は多摩テレビの社員か。

・　食事のシーンの時にＢＧＭが無いように思ったが、あそこでＢＧＭがあればもう少し食べ物の良さが伝わるのではないか。

・　説明や映像等を通して、今までの経験からすると、これだけ長年に渡って細かく几帳面にデータ整理し、かつ、次への準備をしている審議会は全国的にみても珍しいのではないかと思う。そういう中で、私たちも多少なりともお手伝いできればと考えている。

・　パルテノン多摩ではとても素晴らしい催し物があるが、例えばオーケストラや落語などの公演を放送することはできないか。

・　公演となると、かなり難しい。今はＰＲとして指揮者の方や噺家さんにお話ししてもらい、パルテノン多摩が制作したものを多摩テレビで放送しているが、そのようなものの延長で、パルテノン多摩が企画して作るもので、それを条件でお願いするということは出

来る部分もあるかと思う。色々と可能性を探っていきたいと思う。

・　行政が映像番組を作るということはなかなか難しい。コミュニティチャンネルのような映像資料というのは大変貴重であると考えている。過去の資料をデータ化してホームページなどで流用すること等が検討されているということなので、ぜひ実現に向けて努力していただけると、こちらとしてもありがたいと思う。

・　前回の審議会で出た意見に対する対応を、迅速に実行いただき感謝している。今年度については３本用意していた生中継のうち、２つのイベントが中止となってしまった。生中継というのは様々な面で手間や費用が掛かるのは承知の上で申し上げるが、折角３本分の予算を用意したのであれば、中止となってしまった分を別の何かに振り替えて行うことはできなかったのか。難しいことだとは思うが。

・　私は多摩稲城防犯協会に携わっているが、パルテノン多摩で警視庁の音楽隊の公演があった。ＴＴＶ－ＮＯＷのトピックスとして放送はされたが、もう少し流してもらえるとありがたい。公演の全てを放送するのは難しいと思うが、主催者から多摩テレビに事前に話をしておくと少しは違うのではないか。落語などもビックな方は難しいのかもしれないが、こういうものを見て興味を持つ人もいると思う。

・　東日本大震災以降、各地区で防災関係のイベントが行われているが、３月１１日にベルブ永山で多摩市主催の『平成２３年度　市民防災講演会　シンポジウム「東日本大震災から１年～地震災害から身を守る～」』が開催される。こうしたものも、トピックスとしてだけでなく、講演会全体を放送していただけると生の声が視聴者に届くと思うので、検討していただければありがたい。

・　前回の審議会で、『「月刊多摩テレビ」がなかなか食卓に留まらず、たまに多摩テレビを見ようかなと思うが、何をやっているのかわからない。テレビをつけてもテレビショピングが流れていて消してしまう。』と発言したが、今日の資料にあるリストのようなものが前もってあれば、何をやっているのかがわかるので、少しはとっておくようになるのではないか。

・　最近のテレビでは、アンケートのような双方向のやり取りが出来るようになっている。この技術を使うことができるのであれば、要介護者・要支援者・孤独死が増えている中で、有効な手段になるのではないかと思う。多摩テレビではいかがか。

・　以前、あるケーブルテレビ局の実験で、スタジオに医師を招き、集落の人が集まりや

すい場所に看護婦さんを置いて、訪れたご老人とスタジオの医師がテレビを通じて会話する事により、ご老人が一気に元気になったとういこと味わったことがある。

・　放送の仕組みは良くわからないが、例えば医師会や歯科医師会といった団体が多摩テレビや自治会などと話しあって、すぐには出来なくてもそのような形を構築していけるのではないかと思う。

・　放送は送りっぱなしだった時代に、上りの回線を使って反応を見て、そして、それに密着した問いかけをするということで、当時は極めて新しいやり方だった。今はそのような仕組みが機能的にあるわけだが、色々な工夫が出てくる可能性があるように思う。ＮＨＫの番組では、リアルタイムで視聴者からの情報が入ってくる。それにすぐ対応する。全国放送であの程度のことが出来るのなら、考え方・扱い方によっては、地域メディアとしてのケーブルテレビは、もっと毎日の生活に密着したやり取りが視聴者との間に出来て、番組に対する期待というものが非常にあらわになるのではないか。また、その効果が出るのではないか。放送の中でリアルタイムで視聴者とのやり取りをしているものは、まだ少ない。難しい面もあると思うが、対話型の放送というものがこれから地域放送としては力を持ってくるのではないか。

・　視聴者の意見はインターネット経由のものが多いかと思っていたが意外にもファクシミリが多い。マルチメディアの時代でありながら、インターネットに頼っていない人たちがところをついた見方をしているのではないか。是非、検討して欲しい。

・　２５２世帯からなる団地に住んでいる。３年ほど前に多摩テレビのケーブルを利用して、「イントラネット」というものを構築し、防犯カメラを設置した。インターネットの仕組みは使うが情報は外に出て行かず、外からアクセスもできないというもので、現在、稼働している。もう１つ、緊急地震速報の導入も進めている。インターネット対応のカメラを使うということは、カメラ自体が情報端末になる。最大の利点は、相場より半分以下のコストで設置できた点である。番組もさることながらケーブルのネットワークというものをインフラとして使うことは、防犯・防災の観点から見てもとても有効だと思う。多摩テレビでも率先してモデルケースのようなものを作り、もっと広めてもらいたい。

・　特に地域の隣のエリアと協働すれば、中央を走る道路を折半できる。同じインフラを使えば、エリアを取り囲んで出入り口を抑えることが出来るようになり、効果が高まる。是非、もっとアピールしていただきたい。

・　昨年の震災発生時に、多摩テレビにおいて非常に地味ではあったが、とても効果のあ

る放送がなされた。浄水場で放射性物質が発見されたときに、１１２ｃｈを使って、性格な情報をいち早く放送した。

あまり取り上げられていないが素晴らしいことだと思う。

取り扱う情報がどういう経路からとられ、どのように吟味され、どのように扱われて放送されたかという経過を調べることによって、今後、大変参考になる出来事ではなかったかと思う。震災後の１つの成果としてご覧になってはどうか。

・　土・日に電話で取材の情報提供をしようとしたが、音声案内がなかったので対策をお願いしたい。

・　レギュラー番組に加えて、新たなコンテンツの検討とあるが、何か具体的にこんなものを検討しているというものはあるのか。

・　震災発生時は色々な情報が飛び交い、新たな情報が入っても停電という事態に対応するために、庁舎内の電源を全て切る対策をとっていたため、ホームページが全くを更新できない状況になってしまった。そのようなときに多摩テレビはどうのような状況だったのか。また、こうした時に協力いただいて行政からの情報をうまく伝えられるような体制が取れればよいと考えているが、多摩テレビとしてはどうか。

・　震災から１年を迎えるということで、最近はどの局も震災関係の番組を放送してる。そういった中で、地域メディアとしてそれに関連した番組が放送されることは大変結構だと思うが、そういう時だからこそ、コミュニティチャンネルとしての在り方があるのではないか。通常の情報をしっかりと流していくという観点に立ってもよいのではないか。限られた時間の中で、どこも同じ情報を流しているということが良いとは言えないと思う。

・　多摩市直下型地震が発生した時には、多摩テレビではどのような体制をとるのか。現場での取材は行うのか。

・　浦安市のケーブルテレビ局で緊急情報システムというものを作った。設備の保守と放送は局が責任を持ち、緊急情報そのものは市役所で作成するといった責任分担が確立されていた。緊急時であるだけに、このようなことは重要であると思う。日頃の責任区分といったものを単純な縦割りといったような関係ではなく、どれだけ適切な情報をタイミングよく視聴者につたえるか、という視点から考えてそういう切り分けをしている。これにより得た効果を体験した経験がある。